

会 議 報 告 書						
会議名	令和5年度第2回草津市あんしんいきいきプラン委員会					
開催日時	令和5年9月21日(木) 14:00~16:00					
開催場所	草津市役所 2階特大会議室					
委員	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
	委員長	佐藤 卓利	出席	委 員	川那部 光子	出席
	委 員	鈴木 孝世	出席	委 員	寺嶋 和男	出席
	委 員	山本 博一	出席	委 員	柴田 弘三	出席
	委 員	中西 真由巳	出席	委 員	磯山 信夫	出席
	委 員	宮城 徳幸	出席	委 員	田付 逸朗	出席
	委 員	松永 将孝	出席	委 員	山口 芳栄	出席
	副委員長	小川 義三	出席	委 員	宮本 英彦	出席
	委 員	新村 真喜子	出席	委 員	今居 功	出席
	委 員	林 明礼	欠席	委 員	夏原 かず子	出席
	委 員	中村 秀樹	欠席	委 員	吉岡 孝治	出席
事務局	健康福祉部：永池部長、安藤副部長					
	長寿いきがい課：松本課長、力石課長補佐、田中係長、三越係長、河原田副係長、松田主任					
	介護保険課：高阪課長、木村参事、野邊副係長、大西課長補佐					
その他	傍聴者 なし					

1. 開会および挨拶

<草津市附属機関運営規則に基づき、本委員会が成立していることを報告>

<健康福祉部長から挨拶>

2. 議事

(1) 草津あんしんいきいきプラン第9期計画の素案について

事務局	○資料1-1、1-2、1-3、1-4、1-5に基づき説明。
委員	○資料1-5の19ページに老人クラブや地域サロンの推移が記載されている。これらの取組は、活躍できる場づくりという面において大変重要な役割を担っているが、老人クラブは減少傾向にある。地域サロンに参加した際、健康や介護について教えてもらうことができ、非常に有意義な取組に思えた。地域サロンの周知や取組への支援の拡大があればいい。これらの取組を通じて、人とのつながりや支え合い、活躍できる場づくりを推進していく必要がある。また、介護には需要と供給があるが、第3層協議体においてマッチングをしている自治体もある。移送等の困りごとに対し、民生委員が担っている部分もあるようだが、人との支え合いにおいて今後、草津市でも考えているのか。

事務局	<p>○資料1-5の64ページ、生活支援体制整備事業において、第1層・第2層を位置づけており、第1層が市域全域、第2層が各小学校区単位となっている。第3層というのは、町内会単位等を指していると考えが、本市では、学区の医療福祉を考える会議を第2層協議体と位置づけ、地域課題を抽出し、課題解決に向けて話し合う場を設けているところである。当委員会は第1層協議体であるため、今年度も年度末の委員会にて、第2層協議体の報告や話し合いの場を予定している。</p>
委員長	<p>○第3層協議体において、地域ごとに課題が異なるため、具体的な事柄をすべて把握することは難しい状況である。本来は第2層・第3層協議体での具体的な事柄をこの第1層協議体の委員会に反映し、計画を具体化することが基本的な位置づけであるが、実際、開催回数や時間が少ない中で、十分に議論できていない印象である。第9期計画が策定され来年度から実施していく中で、ますますこういった側面は重要になる。</p>
委員	<p>○資料1-5の80ページに老人クラブ活動の充実が記載されているが、会員数や団体数の減少について悩んでいる。創造推進員を配置していただき活動を行っているが、うまく活動ができていない現状がある。充実という面において、具体的な策を考えておられるか。</p>
事務局	<p>○市では、老人クラブ連合会の健康づくり、生きがいづくり、仲間づくりを目的とした取組や人件費に対する支援を行っている。近年は会員数等が減少傾向にあることから、減少を食い止めるためにどのような取組を行っていくか事務局と検討していきたい。</p> <p>老人クラブの会員数減少の一因として、退職の年齢が伸びて65歳以上でも働いている方が多くおられることから、高齢者人口は増えても、老人クラブの加入者は増えない。また、老人クラブ連合会から脱退される学区もある。老人クラブ連合会の事務局や学区の老人クラブと課題や対策について話し合う必要があると考える。ただ、即時的に会員数が増えるわけではないため、継続しながら施策について検討する必要がある。</p>
委員	<p>○やはり現場がどうであるか、手遅れになる前に真剣に考えないといけない。老人クラブは14学区のうち6学区のみが連合会に加入している現状だが、このままでは近いうちに組織自体が解散することもありえる。原因を整理する必要があるが、事務や運営を高齢者が担うには負担が大きく、担い手がない。これは老人クラブだけでなく全ての団体において言えることである。また、地域サロンも同じで、地域サロンが始まってから21年ほどが経ち、リーダーをしていた者も高齢になり、地域サロンを引継ぐ後継者が不足している。仕事やレジャーが忙しいのか、原因はわからないが、地域の集まりやボランティアに参加する人が少なくなっている。また、地域支え合い運送事業でも運転手が少なく、なかなか機能していない。高齢者が増加している中で、移送に関して解決していかなければならない。</p>

委員長	○以前にも委員会で老人クラブについて議題になったことがある。一般的に、老人クラブの加入年齢は60歳からであるが、私は60歳を高齢ではないと思っている。多くの60歳以上の方が、老人クラブに所属できると思っていないように感じる。
委員	○仕事がある中で、老人クラブに参加する時間がない人が多いと感じる。老人クラブの運営を行う人材がいないため、組織を解体している地域もある。やはり、老人クラブを地域で支えていかないといけない。地域の交通機関や老人クラブ等、地域でどれだけ支えるかが重要である。常盤学区や山田学区では高齢者が多いが交通機関がない。地域支え合い運送事業でも運転手が高齢で運用できないなど、いろんな問題が重なっていると思う。
委員	○委員長の発言で65歳を高齢者だと思わないことに関連して、資料1-3の3ページ、目標値の設定において、60歳以上の割合を指標としているが、私は60歳以上ではこの問題を真剣に考えている人は少ないと思う。何らかの要因がありこのように設定していると思うが、65歳もしくは70歳以上とすべきではないか。
事務局	○こちらの指標は市民意識調査を基に設定しており、アンケートの集約上、10代刻みになっている。当計画は高齢者の福祉計画であることから、一般的に高齢者と定義される65歳以上を含んだ指標を設定している。
委員長	○70歳以上に設定すると現状値や目標値はどうなるのか。
事務局	○ターゲット層の年齢が上がるほど、満足していただいている方は多くなるので、現状値や目標値も上がる。指標を60歳以上に設定している意図は、65歳以上の方を含むためである。
委員	○老人クラブに参加される方は世話になりたいという方が多く、その世話をされる方が育たず、困っているように思う。私も事務局をしてほしいと頼まれるが、世話をしてくれる係がいないため来てほしいと言われるとなかなか入りにくい。やはり後継者の育成が大事である。
委員長	○高齢化が進み、比較的元気で仕事をしている高齢者が増えている中で、実際の運営が時代にあっているのかという問題もあるように感じる。基本的に老人クラブは当事者組織であり、自身が社会参加の1つとして老人クラブを選び、生きがいを見出すものであると解釈している。当事者組織である老人クラブと行政との関係において、どのような形が望ましいか整理を行う必要がある。
委員	○老人クラブや地域サロンについて伺っている中で、地域差があると感じる。地域によって地域サロンでの取組も様々で実態を知りたい。
事務局	○地域サロンは社会福祉協議会が応援する立場として、サロンの立ち上げ等に対し支援を行っており、活動回数に応じて補助金を出している。地域サロンは令和4年度末で157サロンあり、取組内容は茶話会等地域によって様々であり、補助金を活用して取組を行っている。

	町内会単位で地域サロンがあるが、どのような取組が他の地域で行われているかについては、社会福祉協議会のHPや担当者に聞いていただき、他の地域の地域サロンに参加することも可能なので、社会福祉協議会に相談いただきたい。
委員	○老人クラブと地域サロンでうまく共存できればいいと思う。
委員	○学区の医療福祉を考える会議をやっていることは知っているが内容がよくわからない。訪問系介護・看護サービスの駐車場確保の問題などは、地域住民も理解する必要があるが、なかなか各町内会の中でも厳しい所があるため、担当課が先導し、学区の中での話し合いや、こういう取組を行っていることを周知する必要がある。
委員長	○13学区で学区の医療福祉を考える会議を開催しているが、学区ごとではばらつきがあるため、学区間の交流や情報発信を行うことが大事である。
委員	○啓発が足りないように感じる。例えば、草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、介護が必要になった場合に介護を受けたい場所はどこかという問いに対し、病院と回答している方が12%おられることから、啓発していく必要があると感じる。また、具体的な施策として、口腔フレイルを予防するということが大切である。食の考え方という面においてまだまだ理想的ではないため、管理栄養士との関わりが必要であり、啓発していく必要がある。
委員	○災害が多くなっている中で、個別避難計画について記載はされているのか。
事務局	○資料1-5の5ページに、計画全体の基本的事項ということで、避難行動要支援者避難支援プランに基づく支援体制づくりについて記載しており、これが個別避難計画にあたるものである。
委員	○資料1-5の25ページ、高齢者の将来人口推計において、令和6年度から令和22年度が記載されている。推計ではあるが、令和5年度の実績を記載することで、今後どうなっていくかを表した方がよいと思う。
副委員長	○資料1-5の84ページ、介護人材の確保に向けた取組の検討という記載があるが、もう少し具体性がほしい。今の介護人材の動きや現状を聞いていると、介護人材がいないため、通常行う排泄や入浴介助を行っていないといった現状が起きている。このような現場では耐えられないと勤務している職員も辞めており、人材不足が招いた結果、利用者へのケアができていないという状況を耳にする。法人のマネジメントも重要であり、介護人材の不足と一括りにしていいのかという問題もあるが、実際、介護人材が不足していることは事実のため、介護人材の確保に向けた取組の検討の項目の中で、外国人の介護人材の活用といったところに触れてほしい。

(2) 保険料について

事務局	○資料 2 に基づき説明。
委員	○質問なし

3. 開会